



アジア健康構想

2024年11月14日開催「Viet Nam – Japan Healthcare Seminar and Business Matching(日越におけるヘルス케어セミナー・ビジネスマッチング)」開催概要

内閣官房 健康・医療戦略室
2025年2月

イベント概要

開催概要

目的：ホーチミンにおける高齢化等のヘルスケア課題に関する課題認識と日本の知見・ソリューションの共有、ヘルスケア分野における日越の協力推進

主催：内閣官房 健康・医療戦略室 共催：ホーチミン医科薬科大学

日時：2024年11月14日（木）8：30-12:00

場所：Windsor Plaza Hotel

結果

現地参加者85人（うち、ベトナム人62人、日本人23人）

オンライン参加者39人



会場の様子

プログラム

8:35-8:50	【開会挨拶・フォトセッション】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使 ※ビデオメッセージ Nguyen Van Chinh ホーチミン医科薬科大学 副学長
8:50-9:00	【アジア健康構想について】 片岡 真理華 内閣官房 健康・医療戦略室 参事官補佐
9:00-9:40	【日本企業5社からのプレゼン】
9:40-10:25	【ベトナムにおける高齢化等のヘルスケア課題について】 Tran Diep Tuan ホーチミン医科薬科大学評議会議長 Nguyen Van Tan ホーチミン医科薬科大学老年学科長 Pham Chanh Trung ホーチミン市人口家族計画局長
10:25-10:35	休憩
10:35-11:15	【高齢化に関するヘルスケア課題に対応した日本の経験について】 森山 智彦 九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター長 肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長
11:15-11:55	【ベトナムにおけるヘルスケア課題に対応するための潜在的ソリューションの紹介（マッチング面談）】 日本企業5社と現地カウンターパートとのブース面談

オープニング・アジア健康構想に関するプレゼン

鈴木大使ご挨拶



- 昨年日越外交関係樹立50周年を記念しハノイでのワークショップを実施した際、ホーチミンでのイベント開催を求める声があったため、今回開催することとなった。
- 日本は国際保健課題への対応を進めてきており、「トリプルI」等の新しい取組も行ってきた。国際保健分野での民間投資を促進していく。
- 本日参加の日本企業の技術力の高い製品をホーチミンの皆様にご覧いただき、ホーチミンの保健課題解決に寄与する可能性を認識していただきたい。

フォトセッション



Chinh副学長ご挨拶



Dr. Nguyen Van Chinh
ホーチミン医科薬科大学 副学長

- 高齢者社会は各国で避けられない現象であり、医療分野においてその問題に対処するための適切な策が求められている。
- このイベントを通じて、医療分野や高齢者ケアにおける協力が更に加速することが期待。

アジア健康構想に関するプレゼンテーション（内閣官房 片岡補佐）



アジア健康構想の概要、及び最新の取組状況について説明。

日本企業の登壇

栄研化学株式会社

- 大腸がん検査のOCセンサー（便潜血検査）、胃がんリスク分析により、高齢化社会における医療課題の解決に貢献。



メドリング株式会社

- 電子カルテを中心に医療オペレーション全般をサポートするMEDi事業、医療機関向けのシステム開発、医療MaaSを展開予定。



オリンパス株式会社

- 検査用内視鏡や手術用腹腔鏡、ビデオイメージングシステム、AIなどのデジタルソリューションにより医療現場を支援。



株式会社Redge

- 臨床工学技士としての知見を活かし、医療機器の保守管理の質向上を目指すCeTraxシステムを展開。VRカメラを用いて臨床現場の体験をすることも可能。



富士フイルム株式会社

- CT/MRI、内視鏡、X線、超音波等の分野でベトナムの一般市民の健康に貢献。
- 医療格差の解消や臨床研究のサポートを目的に、AI技術を様々な製品に導入。



有識者の登壇

Tuan先生



Dr. Tran Diep Tuan
ホーチミン医科薬科大学評議会議長

- 人口の高齢化はベトナムで進行中の課題。ベトナムはまだ裕福でないうちに高齢化が進んでしまうという問題。疾患モデルもNCDsへ移行。

Tan先生



Dr. Nguyen Van Tan
ホーチミン医科薬科大学老年学科長

- ベトナムの主な死因としてNCDs増えてきている。医療サービスの質、医療従事者不足に課題。教育の質向上が不可欠。

Trung局長



Mr. Pham Chanh Trung
ホーチミン市人口家族計画局長

- ホーチミン市は高齢化が特に進展。特定の地区に偏り。健康寿命も短い。ケアできる人材も不足している。知識啓発、施設整備等を進める必要。

森山先生



森山 智彦
九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター長

- 先進国と新興国で医療レベルに格差。日本は安価な健診システム、医療教育等で知見あり。
- 他国への遠隔医療教育を実施。地域や国の医療格差解消に繋げたい。

肥後先生



肥後 裕輝
九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長

- 日本の高齢化対策の経験、介護保険制度、IT・ロボティクスの活用、地域包括ケア等を参考に、ベトナムの今後の高齢化に対する対応策を検討する必要。

マッチング

マッチングの様子



富士フイルム株式会社のブースの様子



株式会社Redgeのブースの様子



栄研化学株式会社のブースの様子



メドリング株式会社のブースの様子



オリンパス株式会社のブースの様子